

速報第3649号 R5.3.6発行 総務課報	道議会における質疑・質問及び答弁要旨	5年・1定 予算特別委員会 3月3日	質 問 者	広田 まゆみ 議員 民主・道民連合 (札幌市白石区)
質 疑 ・ 質 問	答 弁			担 当 課
<p>一 自然環境を活かした幼児教育の在り方について 北海道の強みである自然環境を活かした幼児教育の在り方について、北海道幼児教育推進協議会でどのような議論がされているのか、伺います。</p>	<p>(幼児教育推進センター長) 幼児教育の在り方についてであります、北海道幼児教育推進協議会では、本年度、幼児教育振興基本方針の改定に向け、議論を行っていただいております、その中で、各委員からは、 ・自然や体験が大事にされていくことで、幼児期の体験が大人になったときの大きな力になっていく ・北海道の自然環境を活かし、心を育む教育になっていくことが大事である ・自然豊かな環境にありながらも、子どもの体力が十分でない本道の課題に答える北海道らしい教育の形を、子どもたちのために具体化していく必要があるなどの意見が出され、方針への反映について、検討を進めてきたところでございます。</p>			幼児教育推進センター
<p>二 こども基本法について (一) 協議の場の在り方について こども基本法の施行を契機に、幼稚園、こども園、保育所や、公営か民営かなどの別なく、子どもを真ん中にした、自然保育制度など北海道らしい子育て環境の在り方について、しっかりした協議の場が設置されるべきものと考えますが、見解を伺います。</p>	<p>(幼児教育推進センター長) 協議の場についてであります、北海道幼児教育推進センターは、公立幼稚園を所管する道教委、私立幼稚園を所管する総務部、保育所等を所管する保健福祉部で構成し、公私の別や施設種の違いにかかわらず、幼児教育の充実・推進を図るための拠点として設置しており、センターでは、本道における幼児教育の質の向上を図るため、各種施策の推進状況について意見交換を行う北海道幼児教育推進協議会を設置しております。 協議会では、本年度、幼児教育振興基本方針の改定に向けた議論を行っておりますが、次年度以降は、方針に掲げる各種施策に関し、進捗状況や成果等について御意見をいただくこととしておりまして、その中で、北海道の豊かな自然環境を活用した体験活動や遊びを通じた子どもの育成の在り方等についても議論していただく予定でございます。</p>			幼児教育推進センター
<p>(二) 幼児教育推進センターの果たすべき役割について 教育庁として、こども基本法施行の意義と直面すべき課題をどのように認識しているのか伺うとともに、幼児教育推進センターの果たすべき役割についてどのように認識し、今後どのように取り組むのか伺います。</p>	<p>(幼児教育推進局長) 幼児教育推進センターの役割などについてありますが、まずこども基本法は、社会全体として子ども施策に取り組むことができるよう、その基本理念や基本となる事項を明らかにしたものであり、この法律の制定の背景としては、少子化の進行や人口減少に歯止めがかかっていないこと、児童虐待相談や不登校の件数が過去最多になるなどの課題を踏まえているものと理解しております。 幼児教育推進センターは、本道の全ての幼児教育施設が、質の高い幼児教育を提供できるようにすることをその役割としており、今後も、「幼児教育施設等における組織としての取組の充実」や、「保育者の資質・能力の向上」、「家庭や地域における教育・保育の充実」、「幼児教育の振興を支える体制づくり」にオール北海道で取り組み、本道の将来を担う全ての子どもたちの育ちを支援してまいります。</p>			幼児教育推進センター
<p>(指摘) ニセコ町などの自治体の中では、教育委員会で、すべての子供の政策に関わるところを集約している、そういう自治体もあります。 今、この法律制定の背景として、少子化や人口減少に歯止めがかかっていないですとか児童虐待相談や不登校の件数が過去最多になる、そういう課題を踏まえてというふうにご回答ありましたけれども、自然保育制度を全国に先駆けてスタートした長野県の政策の最初のスタートは、いじめや不登校やひきこもりなどの社会課題に対応するために、学齢前からの幼児教育、保育に力を入れようと、県として決断し、今に至るわけです。 今、地元大学とも連携し、自然保育など森や自然を活用した子育てに関する研究の人材ですとかその現場でそこで働きたいという人材が今、長野県に集まり出しているという状況です。 子ども時代に思いっきり外で群れて遊ぶ子育て環境や体験を保障することは、体力の向上ばかりではなく、自己効力感や自己肯定感を高めるといふ、そ</p>				

質 疑 ・ 質 問	答 弁	担 当 課
<p>のデータが出ていること、皆さん方のご答弁でも過去に、議会でも逆にお答えをいただいていますし、このコミュニケーション能力をつかさどる前頭葉の発達にも大変重要であるということは、脳科学的にもエビデンスがあることであります。</p> <p>是非、私としては今後幼児教育推進センターに、北海道の自然保育制度化に向けて、子どもを真ん中に分野を超えた議論をリードいただけたらというふうに思っています。</p> <p>様々な縦割りを越えて子どもを真ん中に、大人の言い訳だとか常識だとか縄張りを越えて議論を理論的に牽引していく役割を強く期待をいたしまして質問を終わります。</p>		